

MAENAN SAH Journal Vol.36

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Mar. 14th, 2024

★岡山大学より中山芳一准教授をお迎えし、 令和5年度第1回SAH講演会を開催しました！★



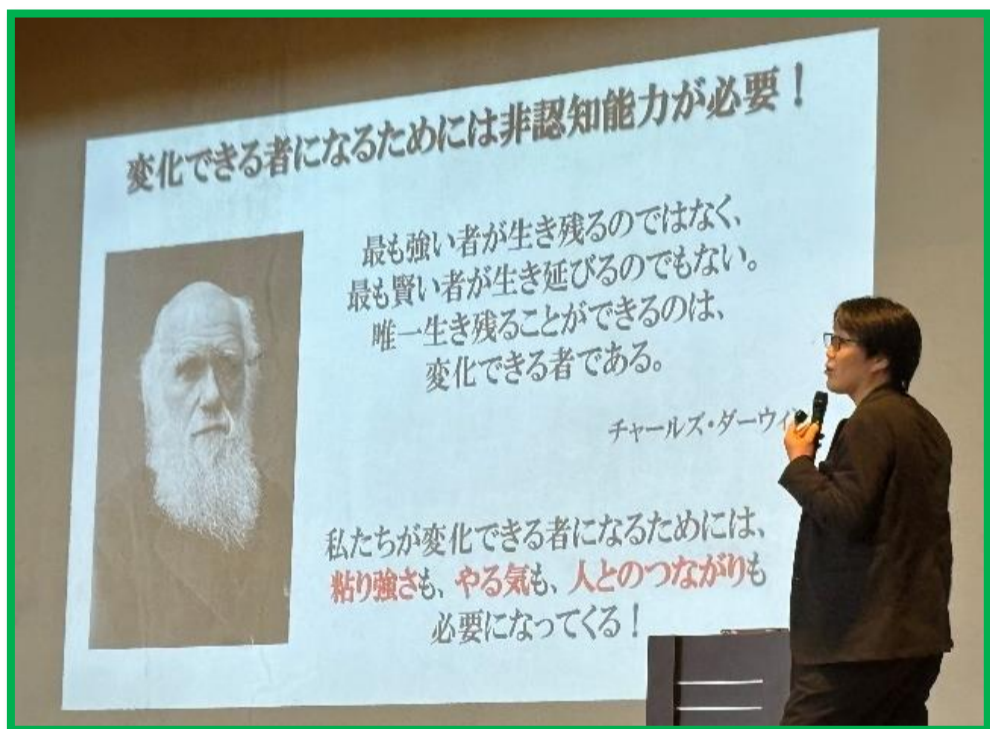
令和5年11月2日発行の『SAH Journal Vol.19』でご紹介した、『岡山大学中山芳一准教授』をお迎えし『これからの時代を生きるために必要な非認知能力を自ら伸ばすために』をテーマに『SAH講演会』を3月7日木に開催することができました！

残念ながら、スケジュールがなかなか合わず、卒業式後となってしまい、参加生徒は1、2年生のみとなってしまいましたが、希望された保護者、および県のSAH指定校の教職員、SAH協力校の教職員、県教育委員会の方々も聴衆として参加していただきました！

中山先生におかれましては、非認知能力の研究者として日本中を飛び回り、講演活動や研究会等でご活躍されております。講演前日の1日だけで7件ものオファーがあったとおっしゃっていました。今からの予約では、いつ実現できるかわからない状況ですので、SAH活動を1年実施した直後に、中山先生のお話を聞くことができ、『このままの継続でいいんだ』という部分と『もっとこうすればもっとよくなる』という部分が確認できましたので、ベストなタイミングとなったのではないのでしょうか？！

私自身は別の機会に中山先生の講演を聴かせていただいたのですが、まさき感じたのが『本校の生徒に聴かせたい！』という想いでした！研究者の方々のお話は時に『難解』であり、『モノトーン』な場合があるのですが、中山先生のお話は『エキサイティング』ですの

で、本校生徒の心と脳に、ものすごい刺激になると確信したからです。今回、開催できましたのは、中山先生に本校でのご講演をご承諾いただいたことはもちろんのことですが、ベネッセコーポレーション関東支社長の田邊様にご仲介いただいたことがきっかけですし、県教育委員会のご支援がなければこの講演会は実現できませんでした。この場をお借りし、みなさまにお知らせするとともに、御礼を申し上げたいと思います！ありがとうございました！



自分で決める(=自己決定)には3つある！

- 自己決定**
- 周囲からの干渉なく自分で決める
 - 他者からの提案や助言に納得して決める
 - 「納得するまで続けてみる」を決める

次の3つは自己決定ではない！

- ×納得できないから簡単に投げ出してしまう
- ×何も考えないでただそのまま続けてしまう
- ×納得していないのに仕方なくやらされてしまう

日常の当たり前を非日常の有難しに変えるコツ

いつもやっていることに+αの意識を！

それを意識することで〇〇系の力を伸ばせるかも！



SAH 講演会の運営は、生徒会役員、生活委員会、図書委員会、各 HR 長、副 HR 長など、生徒が運営を行いました。司会の原稿も生徒作成のオリジナルです。生徒代表謝辞も質疑応答コーナーの質問も、もちろんアドリブです。体育館入口で保護者や県教委・他の指定校・協力校の先生方のお出迎え、案内等も生徒のその場の判断に任せました。多くの方々に参加をいただきましたが、いちばんの感想としてあげられていたのは、『前南生が主体的に運営していた』『玄関や受付で気持ちよい挨拶と笑顔で来校者を出迎えていた』『前南生が講演に聴き入っていた』『楽しそうに中山先生の冗談にリアクションしていた』『積極的に次々に質問していた』『質問の内容が講演の内容を理解しているが故の質問ばかりであった』など、『SAH 事業によって刺激を受けている非認知能力を意識している前南生の立派な姿』でした！1年生の感想文（一部抜粋、一部修正あり）を掲載しますが、私が再び講演内容を説明する必要もないことがわかります！今後の生徒の変容が楽しみです！次号では、SAH の1年間のまとめと、2年生の感想文を紹介します！（文責：教頭 星野 亨）

人間の仕事の約50パーセントがAIに奪われてしまうと話題に上がった時は、将来が不安になりました。しかし、AIは認知能力が高く、大量の情報を扱うことは得意だが感情がなく、人とのコミュニケーションを要する仕事が難しく、逆に人間は非認知能力、感情があり、人とのコミュニケーションがAIより得意だということを知り、非認知能力を高めることは将来において重要だということがわかりました。

1年1組 入 龍之介

たくさんの内容のなかで特に印象に残ったのは「納得解」と「メタ認知」の考え方でした。「合っている」「間違っている」という基準を無意識に使っていた気がして、それが自分の「納得するもの」「しないもの」だという視点がなかったからです。

「メタ認知」の大切さがよくわかりました。私は自分としっかり向き合うのが苦手だけれど、向き合うことで見つけた自分を忘れずに、大切にしながら少しずつ成長していけたらと思いました。

1年2組 羽鳥 由真

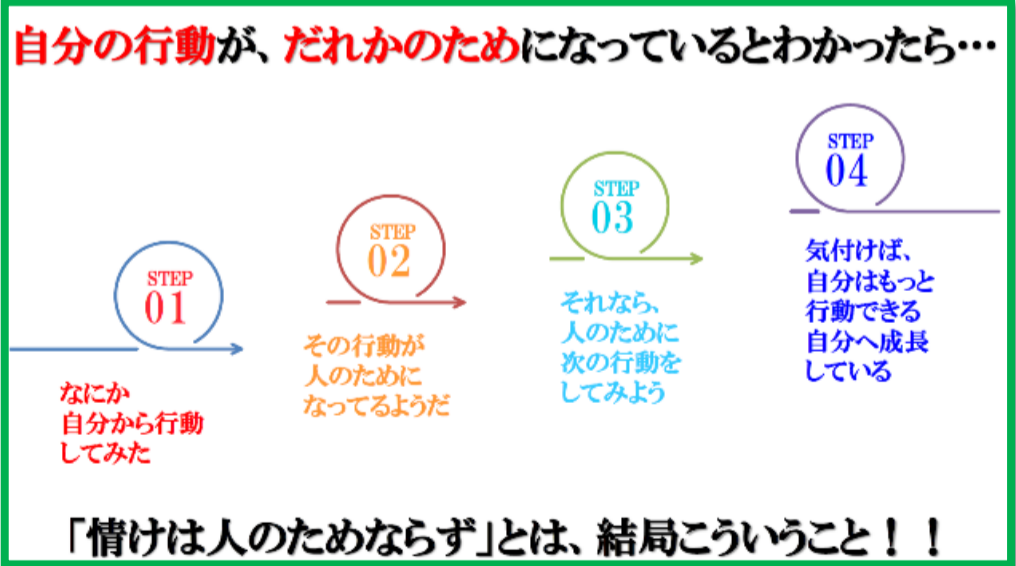
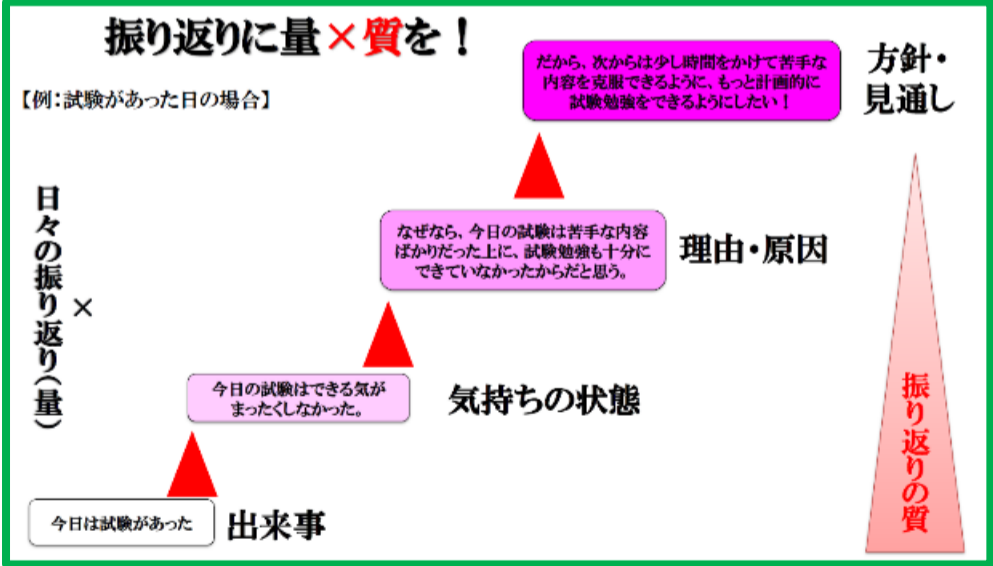
今日、中山先生のお話を聞いて、全てをポジティブ思考に変えて自信をつけ、この力をうまく使いこなしていこうと思うことができました。自分の感情も行動も変えられるのは自分しかいないので、自分を褒めながら良い行動を習慣にしていこうと思います。また、自分のためだけでなく相手のために動ける人になるために相手の意見が自分と違っていてもそれを否定せず受け入れていきたいです。

1年3組 高橋 愛

今日の講演会を通して、SAHとは「非認知能力」すなわち「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」であり、それらを状況に応じて使いこなすことが重要ということを知りました。人には生まれ持った特性があり、それらを生かすことが社会で活躍していく上で大切ということを知り、自分はどんなことが得意で、どのように伸ばしていくことができるのか、と考えさせられました。一見短所に見えるような特性も見方を変えることで長所になりうるという中山先生の経験談によって自分に自信を持つようになり、自信を持とうと思えるようになりました。1年4組 竹科 伊月

私は大人になっていく過程で「自己決定できる力」を身につけていきたいなと思いました。そのために他者からの意見をたくさん取り入れようと思いました。自分で決めていくことは幸福感にもつながるので、自分の人生を豊かにするためにも「自己決定」を意識して生活していこうと思いました。また、日記を書く習慣を大切にしながら「振り返り」を意識していこうと思いました。

1年5組 江原 美夢



★校長より★

中山先生の近著に、西岡孝誠氏（西岡氏は原作マンガ「ドラゴン桜2」（講談社）に情報提供するプロジェクトリーダーで現役の東大生）との共著である「東大メンタル『ドラゴン桜』に学ぶ やりたくないことでも結果を出す技術」（共著、日経BP）があります。ドラマでは繰り返し「自分の人生だ。お前が決める」というセリフが出てきます。中山先生は、「どんな形でも良いから、まず『自分はこうしたい』という目標を立てて、そのために前へ進むことが主体性であると考えています。自分で決めたことだから逃げないし、やりたくないことも一定の段階までは頑張ることができる。目標実現へどこから手を付けるべきか、モチベーションをどう継続するか、あと一歩の段階での戦略をどう組み立てるか——などを考えるのも非認知能力です」とおっしゃっています。ご存じのように前南生の中には既に「自分はこうしたい」と校長室を訪れ、仲間と苦労しながらも実現していった生徒がいます。この1年間、SAH 活動を通して「非認知能力とは何か」「どうしたら非認知能力が育つか」を生徒も教員も意識してきました。この時期に聞いた中山先生のご講演が、皆さんの中で響き、すっと落とし込めたのは、前南の皆さんが歩んできた道に間違いがなかったことの表れだと思います。

校長 関根 正弘